

学校法人鉄蕉館 中長期経営計画書(2026-2030 年度)

1. 基本ビジョン

本法人の中長期経営計画における基本ビジョンは、「実践と変革」である。

医療を取り巻く環境は、人口動態の変化、医療人材需給の逼迫、教育政策の高度化、デジタル技術の進展などにより、かつてない転換期にある。このような時代において求められるのは、単なる知識の伝達ではなく、現場で確かな力を発揮できる「実践力」と、既存の枠組みを問い直し新たな価値を創造する「変革力」である。

本法人は、地域に根ざした実践教育の伝統を基盤としつつ、教育の質保証を経営の中核に据え、変化を先取りする組織へと進化する。文部科学省が重視する教育評価・内部質保証体制の高度化への取り組みは、その具体的実践である。本法人は、学生・教職員・地域・医療機関が相互に学び合いながら成長する「学びの循環」を構築し、次世代看護人材育成のハブとしての役割を果たす。

2. 外部環境と課題認識

先に述べた人口動態、医療人材需給、教育市場構造の変化という三つの大きな外部環境の転換点にあり、南房総地域の18歳人口にのみ依存するモデルは長期的な持続可能性が低く、全国規模での市場開拓が急務である。

これら外部環境の激変に対応し、教育の質を維持・向上させていくためには、収益構造の抜本的な見直しと財政的な立て直しが不可欠である。安定的な経営基盤を再構築することで、戦略的な投資を継続できる体制を整えなければならない。

一方で、社会人を対象とした学び直しや高度専門職教育へのニーズは着実に拡大しており、文部科学省もこれを強力に推進している。本法人は、オンライン教育や都市部サテライトキャンパスを駆使した新たな教育モデルへと転換し、「次世代看護人材育成のハブ」としての地位を確立する。

3. 亀田医療大学の戦略

【戦略1】18歳向け教育:市場変化に対応する柔軟な教育プログラムの開発

将来の多様な医療ニーズに対応できる看護人材を育成するため、大学学部を中核に据え、募集対象を全国区へと拡大する。これにより、「次世代の看護師育成の先進教育機関」としてのブランドポジションを強固なものにする。

本法人は、医療現場のニーズや市場の変化を継続的にモニタリングし、救急・急性期医療、地域包括ケア、訪問看護の経営など、時代が求める新たな教育プログラムの開発を柔軟に検討していく。亀田総合病院をはじめとする臨床現場との密接な連携を通じて、現場の課題と学生の学びを結びつけ、実践力の高い人材育成を実現する。

【戦略2】社会人学士入学:リスキリング市場を狙う最短教育モデル

異分野での経験を持つ社会人に対し、これまでのキャリアを活かしつつ、最短期間で看護実践能力を習得できる編入学(学士入学)カリキュラムを実装する。

(1) デジタルと対面を融合したハイブリッド型ラーニングの展開

オンライン教育を基盤としつつ、東京都内のシェアオフィス型サテライトキャンパスを効果的に活用し、仕事や生活と両立可能な学習環境を構築する。

(2) 最短期間での国家試験受験資格取得

既修単位の認定と鴨川の臨床現場での集中的な実習を組み合わせ、現行制度下で最短となる期間での看護師国家試験受験資格の取得を支援する。

(3) リスキリング需要への対応

文部科学省が推進する社会人の学び直しニーズを的確に捉え、他大学卒業者や社会人層のキャリアチェンジを強力に支援する。

【戦略3】大学院教育:専門性を極めるプロフェッショナル教育

すでに看護師免許を持つ専門職を対象に、さらなるキャリアアップと高度な専門性を提供し、全国から優秀な人材を惹きつける。

(1) 日本型 DNP (Doctor of Nursing Practice) の確立

臨床実践に立脚し、サービスを自ら設計・地域実装できる専門職博士(DNP)を大学院教育の中核に据える。

(2) 高度専門領域の重点化

本法人の強みである臨床実践基盤と地域医療ネットワーク、および全国的な看護人材ニーズの動向を踏まえ、重点投資すべき専門領域を戦略的に選定する。選定にあたっては、以下の視点から評価・検討を進める:

- 亀田総合病院の臨床的強みとの連動性
- 全国的な専門職人材の需給動向
- 既存の教員・研究リソースの活用可能性
- 差別化可能な独自性の構築可能性

候補領域としては、ウィメンズヘルス看護学、がん看護学、クリティカルケア、地域・在宅ケア、小児、精神看護、国際看護、看護管理・医療経営等が挙げられるが、今後重点3~5領域を確定する。

(3) 全国展開とアクセスの最適化

サテライトキャンパスとオンラインのハイブリッド活用により、全国の現役看護師が働きながら高度な専門性を習得できる環境を整備する。

【戦略4】戦略的投資と実行体制

鴨川を「次世代看護人材育成のハブ」と位置付け、卓越したプロフェッショナルを惹きつけるための組織変革と投資を断行する。

(1) 学生募集プロセスの再定義と「教育パートナーシップ」への転換

高校へのアプローチを、従来の募集活動中心から、探究学習支援等の「教育パートナーシップ」へとシフトさせ、継続的な関係性を構築する。

(2) 卒業生ネットワーク(アルムナイ)の戦略的活用

13年にわたる卒業生の実績を「教育的価値の証(エビデンス)」として再定義し、多様なキャリアパスを可視化する。

卒業生の活躍を具体的に発信することで、受験生の将来不安を払拭し、本学の教育価値を証明する。

(3) デジタルプラットフォームの構築と接点の最適化

デジタルマーケティングやSNS活用を徹底し、潜在的な志願者が本法人の教育価値に触れるためのデジタル接点を最適化する。

4. 亀田医療技術専門学校の戦略

少子化の進行、専門学校を取り巻く競争環境の激化、医療人材養成機関に求められる教育の高度化を踏まえ、本校は「安定的な学生確保」と「教育の質向上(教職員の教育力強化)」を最重要課題として位置づける。これらを組織的・継続的に実行可能な体制整備と一体で推進し、「地域医療人材養成機関としての持続可能性確保」を図る5か年とする。

基本方針

- 地域医療を支える実践力ある人材の育成
- 教員の臨床実践能力を基盤とした教育の高度化
- 地域社会との関係強化による学校価値の向上
- 「選ばれる学校」への転換

【戦略1】学生確保の強化

(1) 広報活動の再設計

高校訪問の体系化を図り、重点校を設定し訪問の年間計画化と活動人材の拡大を進める。Web広報ではSNS・動画・卒業生事例など現在のコンテンツを改善し、オープンキャンパスでは職業イメージを可視化できる魅力的なプログラムを展開する。また、保護者層への情報発信を強化し、家族全体での進路選択を支援する。

(2) 地域連携による募集基盤の拡大

近隣市町村との関係を人材政策レベルの連携へと深化させる。奨学金制度の創設・拡充の協議、スクールバス運行支援の要請、地域推薦制度の検討、地域出身者の定着モデル構築など、地域と一体となった学生確保の仕組みを整備する。

【戦略2】教育の質向上

教育の質は教員の臨床実践能力と教育能力の双方によって支えられる。本校では以下の三つの柱で教育力を強化する。

(1) 専任教員の臨床実践力の維持・向上

専任教員が病院での兼業を通じて臨床感覚を維持し、最新の実践知を教育へ還元することで、臨床現場との整合性を重視した教育指導体制を構築する。また、専任教員の特定行為研修受講を推進し、高度実践教育の実現と専門学校としての教育的差別化を図るとともに、看護師の専門性を可視化する。

(2) 教育力の組織的な底上げ

属人的な教育から組織的な教育への転換を図るため、FD・SDへの計画的参加、授業相互評価の推進、学生評価の改善と活用、臨地実習指導力強化のための臨床との連携を体系的に実施する。

【戦略3】多職種連携教育(IPE)の推進

千葉医療福祉専門学校との協力関係を基盤に、多職種連携教育(IPE)を段階的に導入する。チーム医療理解の深化、職種間コミュニケーション能力の向上、実践的臨床適応力の強化を図り、本校独自の多職種連携教育モデルを構築する。

【戦略4】地域貢献と学校価値の向上

地域にとって本校が社会的存在価値を持つ機関へと転換する。

(1) 学生ボランティア活動の拡充

小学校土曜スクールへの参加、教育支援活動・高齢者支援活動の場の開拓、災害支援教育と連動した地域の防災ボランティア活動への参加など、地域社会との接点を多様に展開する。

(2) 地域から信頼される学校づくり

地域イベントへの参加、地域行政との対話強化、卒業生ネットワークの活用を通じて、地域に根差し、地域から信頼される教育機関としての地位を確立する。

5. キャンパス内武道場の戦略的活用と医療系スタートアップ共創拠点の形成

本法人は、キャンパス内にある武道場を未活用施設として維持するのではなく、次世代医療・看護分野のイノベーションを生み出す共創型教育・研究拠点として再定義し、戦略的に活用する。具体的には、同施設を医療・看護・介護分野に特化したスタートアップの誘致・連携拠点として位置づけ、大学・附属病院・外部研究機関・民間ベンチャーが交差する実践的なイノベーション環境を構築する。

本拠点では、看護・介護ロボット、医療支援AI、看護業務の高度化・効率化を目的としたデジタル技術等をテーマに、教員・学生、臨床現場(病院・地域医療)、医療系スタートアップが協働し、研究開発から社会実装までを一体的に進めることを目指す。

この取り組みにより、教育現場においては、最先端技術に触れる機会を日常的に提供し、学生の探究心・課題発見力・イノベーション志向を刺激するとともに、教員にとっても研究・教育の新たな展開可能性を開く環境を整備する。

医療・ロボティクス・AI 分野に強みを持つ研究機関や民間企業との情報交換・意見交換を行い、具体的な連携形態(共同研究、実証フィールド提供、インターンシップ、教育連携等)について検討を進める。

本法人は、本拠点を通じて、教育、臨床、研究、産業を有機的につなぐことで、「学ぶ場」であると同時に「新しい医療を生み出す場」としてのキャンパスの価値を高め、次世代看護人材育成のハブとしてのプレゼンスを一層強化していく。

6. 2030 年に実現する姿

本中期計画の遂行により、本法人は「次世代看護人材育成のハブ」として、18 歳から社会人までが絶えず集い、成長し続けるプラットフォームへと進化する。変化に柔軟で、亀田総合病院への安定的な人材供給と、救急・訪問・在宅・経営を担う高度な地域医療人材を輩出し続ける持続可能な教育法人を実現する。